

IRに対する府民・市民のコンセンサスを得ることが重要であるため、府民・市民全体、女性・ファミリー層、大学生・若い世代などを対象として、戦略的に丁寧な情報発信に取り組み、理解促進を図ります。

主な取組み

① 府民・市民全体への情報発信

- ・事業進捗に応じた内容をテーマにIRセミナーを開催（計9回予定）
 - ・第1・2回は、谷岡先生ご講演「世界から観るIRの軌跡」をテーマに開催（6/4・7/3）
 - ・第3・4回は、西村先生ご講演「（仮題）『ギャンブル等依存症』の本質とその対策」をテーマに開催（8/1・9/5）

② 地元企業への情報発信

- ・地元・中小企業向けビジネスセミナーの企画・開催（1回予定）
- ・経済団体等との共催講演会の開催（7月から8回予定）
- ・経済団体等への出前講座の開催

③ 女性・ファミリー層への情報発信

- ・女性・ファミリー層向けフォーラムの開催（1回予定）
- ・女性の意見を取り入れた、手に取りやすくわかりやすい内容のミニパンフレットの作成（年内目途に完成）

④ 大学生・若い世代への情報発信

- ・提案・研究発表会（2/8）に向けた大学ゼミとの連携事業の実施（5/16 スタート 阪南大、大阪観光大、立命館大、流通科学大 ほか1大学予定）
- ・外部講師による特別講演の開催（5/9 大阪観光大 ほか4大学予定）
- ・職員による出前授業の開催（立命館大、近畿大 など10大学予定）

⑤ リーフレットの配布や動画の放映

- ・リーフレット4種の作成（IRって何？、IRの魅力、ギャンブル等依存症対策、地域風俗環境対策）
- ・動画6種の作成（IRの魅力編、ビジネスチャンス編、ギャンブル等依存症対策編）
- ・当局主催のセミナーや講演会、市役所等の公共施設等で配布・放映
- ・動画については、包括連携協定締結企業が持つ広報媒体の活用も検討

平成30年5月10日 読売新聞 朝刊

**推進会議座長が
IRに理解訴え**
熊取で講演

カジノを含む統合型リゾート（IR）の誘致を進める府と大阪市は9日、IRの大阪誘致への理解を深めてもらおうと、熊取町の大阪観光大学で、府市のIR推進会議座長で、大阪観光局理事長の溝畑宏氏による特別講演を行った。

同大学の学生ら約150人が出席。溝畑氏は「IRを正しく理解してほしい。カジノは一部。メインはホテルやショッピングモール」とし、「（収益性の高い）カジノを入れるのは、税金を使わず、（併設される）国際会議場や展示

場などをつくるため。海外から人、物、金を取り込んで経済を活性化する」と述べた。

一方、懸念されているギャンブル依存症については、規制や対策で効果を上げたこととされるシンガポールの事例を挙げ、「予防から発症後のケアまでしっかりと対策すれば、依存症の人は減ると思う」とした。

講演を聞き終えた同大学1年、土岐梓さん（18）は、IRがカジノだけでないことはわかったが、治安が悪化するのではないかと不安が残った。誘致を進めるなら、もっと地元住民の理解を得る必要があると感じたと話した。

IR誘致 大阪の未来は？

学生向け推進局講演

人工島・夢洲に統合型リゾート（IR）の誘致を目指す府と大阪市のIR推進局は9日、大阪観光大学（熊取町）で特別講演を開いた。専門家でつくる府市の「IR推進会議」座長の溝畑宏・大阪観光局長（57）が講師を務め、同大学観光学部の学生約190人にIRがもたらす大阪の未来像について語った。

【藤頭一郎】



「IRにカジノ以外の施設もあることを知って」と学生らに呼びかける大阪観光局長の溝畑宏局長
＝熊取町の大阪観光大学で

誘致する背景について、大阪観光局が昨年、大阪を訪れた外国人を対象に実施したマーケティング調査の結果などを示して説明した。

大阪府民の平均所得が全国平均並みに低迷するなど経済状況が良くなっていない一方、

大阪を元気にする力がある」と強調した。

また、カジノだけでなく、IRにはホテルや「MICE」と呼ばれる大型展示場・会議場、エンターテインメント施設などが含まれることも説明。「税金を使わずに、国際会議などを開催できる規模のMICEをつくるには、収益性の高いカジノが必要だ」などと呼びかけた。

講演後、観光学部1年の山形春陽さん（19）

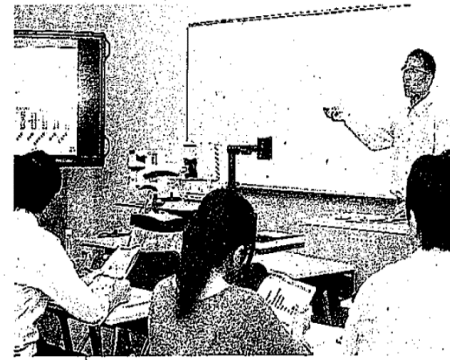
「就活の選択肢」「治安懸念」――反応さまざま

府市は昨年、IRへの理解を深めてもらうことを目的に、一般向けの説明会を府内各地で開いている。今後、懸念とされるギャンブル依存症対策などについても学生向けに講演会などを開く予定にしている。

この日の講演で溝畑局長は、IRを大阪にアジアからの観光客を中心に大阪を訪れるインバウンドが増加していることを指摘。「観光はすべての産業が絡む成長産業。IRには

同学部1年の土岐梓さん（18）は「泉佐野市」は「治安面での懸念など、住民への理解を深める施策も期待したい」と話した。

平成30年5月11日 毎日新聞 朝刊



一方、IRの誘致活動を進める大阪府と大阪市は、IR実施法案の成立に備えて府民や学生を対象にしたセミナーを開き、理解を得ようと躍起になっている。

府と市は、大阪湾岸部の人工島・夢洲への誘致をめざし、昨年4月に共同のIR推進局を設置。顔認証などの先端技術を使った入場規制といったギャンブル依存症対策の検討も進めてきた。

ただ、懸念の声が根強い。ため、府立命館大学の学生にIRの説明をするIR推進局の職員22日、立命館大学大阪いばらきキャンパス

誘致めざす大阪府・市

セミナー 大学と連携

と市はIRへの理解を広めようと、昨年6月から府民を対象にしたIRセミナーを始め、これまでに10回開いている。

また、今月からは大学と連携した学生相手のセミナーも始めた。法案が審議入りした22日も、大阪府茨木市の立命館大学大阪いばらきキャンパスで、IR推進局の職員が学生ら約10人に説明。反対の声が多いことを学生から指摘されると、職員は「（依存症対策の）トッパンナーをめざす」と理解を求めた。今後、約15校の大学で有識者や職員による講義を開くという。（坂本純世）

IRへ理解 大学と連携

府・大阪市 学生に授業、提言期待

カジノを含む統合型リゾート（IR）の誘致を進める府と大阪市が、大学との連携を進めている。経済効果や雇用創出などを強調して若者の理解を得たい一方で、増加が懸念されるギャンブル依存症への対策などについても意見を求めている取り組みだ。

同市住之江区の府咲洲庁舎で阪南大経済学部2年の男女9人が参加した授業では、職員が「IRを誘致す

れば大きな経済効果が生まれ、雇用も創出される。カジノの収益は福祉や教育などの公益目的に還元される」と強調した。

職員はギャンブル依存症の増加や治安悪化などの懸念についても言及。ところが、学生からは「いい点だけを並べていると思う。マイナス点をもっと深く説明してほしい。もやもやする」などの意見が出て、「事例を学びながらしっかり対策を

取っていく。疑問点はほとんどぶつけてほしい」と職員が応じる一幕もあった。

学生らは今後、海外のIR施設を見学するなどして府市に対する提言をまとめ、来年2月に成果を発表する予定だという。

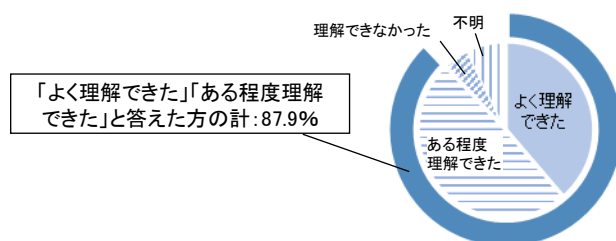
府市は、大阪観光大や立命館大とも連携し、同様に学生からの提案を受けるほか、学生向けの有識者による講義や職員による出前授業などを複数の大学と調整中だ。担当者は「若者にとってIRが質の高い就職先で、将来の活躍の場であるということを知ってもらえば」と話している。

平成29年度 IR誘致に向けた理解促進の取組み結果

① 府民・市民全体への情報発信(IRセミナー)

- ・職員及び外部講師により、IRの必要性や効果、大阪がめざすIR像のほか、懸念事項対策等を説明(10回実施、計782名参加)
- ・アンケート結果概要(回答者数:625名)

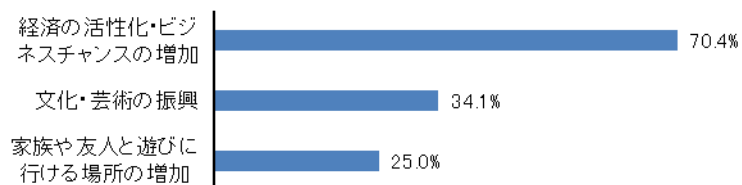
【セミナーの理解度】



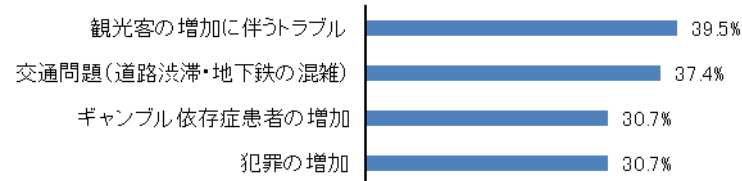
【セミナーで聞きたいこと】



【IRに対して期待すること】



【IRについて心配なこと】



② 大学生への情報発信

職員による出前授業の開催(6大学・571名参加)

③ 地元企業への情報発信

職員による経済団体の役員会等での出前講座の開催(12団体・251名参加)